

2023年1月31日

## 脳神経外科に、過去に通院・入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

### [研究課題名]

神経膠腫摘出による治療効果判定に術中 Magnetic Resonance Imaging (MRI) 検査、5-aminolevulinic acid (5-ALA) 蛍光標識検査、分子イメージング Positron Emission Tomography (PET) 検査の手術支援システムの評価を調べる後ろ向き研究

[研究機関の長] 香川大学医学部長

### [研究責任者名・所属]

(氏名) 三宅啓介 (所属) 脳神経外科 (職名) 教授

### [研究の目的]

神経膠腫摘出には位置や大きさなどの形態を示す MRI 検査を中心に、5-ALA 蛍光標識検査や分子イメージング PET 検査など代謝機能を把握する検査を併せて検討しています。この研究は、手術中に評価を行う画像検査 (MRI 検査や PET 検査) と手術中に蛍光評価を行う 5-ALA 蛍光標識検査を対象に、5-ALA の蛍光が残存しているときの MRI 検査や PET 検査のそれぞれの摘出率や残存量を、5-ALA の蛍光が消失しているときの MRI 検査や PET 検査のそれぞれの摘出率や残存量を比較検討し、術中に蛍光標識件を信頼すればよいのか、MRI 検査を信頼すればよいのか、あるいは PET 検査の集積領域を中心に摘出するのがよいのか、それぞれ検討し、最終的にどの検査を最も信頼し摘出を行うことがよいのかを評価することが目的です。これらの情報の結果が、最終的に神経膠腫疾患の治療法の向上に役立てると考え、行う研究です。

### [研究の方法]

対象となる患者さん

神経膠腫疾患の患者さんで、2016年1月1日から2028年2月29日の間に、脳神経外科に通院・入院された方

利用する診療情報

診療情報：診断名、年齢、性別、病変の左右差、病変部位、検査結果 [血液検査、画像検査 (頭部 MRI 検査ならび PET 検査 (MET、FLT、FMISO) の集積ならび集積の体積、神経学的症状の有無、出血症状の有無、浮腫の有無]

### [研究組織]

香川大学 医学部 脳神経外科 三宅啓介

### [研究代表者]

香川大学 医学部 脳神経外科 三宅啓介

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる

情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院脳神経外科 担当医師 三宅 啓介

電話 087-891-2207 FAX 087-891-2208